

白岡市議会全員協議会説明資料

－白岡市立学校適正規模・適正配置等計画の
策定状況について－

令和8年7月23日

白岡市 教育部 魅力ある学校づくり推進室



令和 8 年 7 月 6 日

白岡市教育委員会 様

白岡市立学校適正規模・適正配置審議会
会長 濱 本 一

白岡市立学校の適正規模・適正配置等について（答申）

令和 7 年 7 月 4 日付け魅学第 8 号で諮問のあった、白岡市立学校の適正規模・適正配置等については、白岡市立学校適正規模・適正配置審議会条例第 2 条に基づき、下記のとおり答申する。

記

1 白岡市全体の学校の適正規模・適正配置

白岡市における 20 年後の児童生徒数の将来推計値を学校の適正規模の基準に照らし合わせた結果、白岡市全体で想定される学校数は、小学校が 3 ～ 4 校、中学校が 2 ～ 3 校となった。

さらに、この想定学校数と適正規模・適正配置検討条件に基づき、考えられる 4 つのパターンを整理した。それぞれのパターンは次のとおりである。

- ・パターン 1 「小学校 3 校・中学校 2 校」
- ・パターン 2 「小学校 3 校・中学校 3 校」
- ・パターン 3 「小学校 4 校・中学校 2 校」
- ・パターン 4 「小学校 4 校・中学校 3 校」

審議会において多角的な視点による議論を行った結果、**パターン 2 「小学校 3 校・中学校 3 校」**を軸として、具体的な学校の再編案を検討していくことが妥当との結論に至った。その理由は次のとおりである。

- (1) 全ての小・中学校において適正規模を確保することができ、学校の過大化や過小化に伴う児童生徒の学習・生活環境への影響や教職員の過度な負担といった各規模における課題の解消が期待できること。
- (2) 小学校と中学校の数が一致することで、9 年間の継続的な指導体制が構築しやすくなり、学習指導の充実や子どもたちの豊かな人間性の育成、さらに

は一人ひとりのきめ細かな支援の向上が期待できること。

2 審議の経緯及び配慮事項

(1) 白岡市立学校の適正規模・適正配置に関する「将来ビジョン」について

白岡市における児童生徒数の将来推計や学校施設の現状を踏まえ、児童生徒一人ひとりの資質・能力を最大限に伸ばせる環境づくりについて議論を重ねてきた。

そして、審議会での議論を通じて、白岡市が目指すべき学校のあり方を具現化するために、以下の「3つの柱」と白岡市の特色を生かした教育として「図書を生かした教育」を掲げた。

今後は、3つの柱を軸に据え、図書を生かした教育を組み込みながら、これらに基づく主な取組を展開し、子どもたちにとって最適な教育環境の実現に向けた、適正規模・適正配置の着実な推進をお願いしたい。

ア 一人ひとりが輝く「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

- (ア) 多様な学習が展開できる適正な学校規模の確保
- (イ) 少人数指導・教科担任制の充実によるきめ細やかな支援
- (ウ) チーム担任制の導入に向けての研究
- (エ) 特別支援教育や不登校支援の充実による多様な学びの保障
- (オ) ICT教育の深化に向けたデジタル技術の活用による学習支援体制の強化
- (カ) 「学び」と「育ち」の連続性を確保した小中連携の推進

イ 地域とともに育む「協働と創造の学び」の推進

- (ア) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）や地域学校協働活動の充実を図り、地域との連携基盤の強化
- (イ) 持続可能な運営体制の構築に向けた部活動の地域展開の充実
- (ウ) 地域の自然・文化・産業・歴史を教材とした探究的学習の推進
- (エ) 地域住民・企業などとの連携による社会に開かれた学びの場の拡充
- (オ) 地域の特性や資源を活かし、地域に根ざした魅力ある学校づくりの推進

ウ 安心・安全で「快適な学校環境」の実現

- (ア) 学校施設の機能強化と魅力向上を両立した整備の推進
- (イ) 地域の実情に応じた学校施設と他の公共施設との複合化・共用化の推進
- (ウ) 学校間のプールの共用化や民間プールなどの利用の検討
- (エ) 学校給食のあり方の検討
- (オ) 学校を地域の避難所として活用するための防災機能の強化
- (カ) 教職員の働き方改革につながる学校づくりの推進

エ 図書を生かした教育

- (ア) 学校図書館を核とした地域共生コミュニティの創出
- (イ) 学校図書館等のメディアセンター機能の強化
- (ウ) 生涯学習センターを拠点とした図書を通じた住民の学習・交流の充実

(2) 小中一貫教育の推進について

白岡市が直面している児童生徒数の減少や不登校、特別支援教育への対応など、一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな指導体制の確保といった教育課題に対し、9年間を見通した連続性のある指導体制の構築は極めて有効である。

小中一貫教育を推進することは、日常的な異学年交流を通じた豊かな人間関係の形成や発達段階に応じた指導の充実、さらには小中教職員間の連携強化によるきめ細やかな支援の確保をもたらすものと期待される。

さらに、前述の方針である「小学校3校・中学校3校」の方向性は、小学校と中学校の数が一致することから、小中一貫教育を展開していく上で効果的である。

よって、小中一貫教育の課題を克服しつつ、推進に取り組むことをお願いしたい。

3 審議会からの意見等について

今後の学校の適正規模・適正配置に向けた具体的な取組にあたっては、審議会において出された以下の意見を十分に配慮していただくようお願いしたい。

(1) 地域・保護者への対応

ア 地域住民等に対し、丁寧な説明を実施し、しっかりとした情報共有と共通理解を図り、地域・保護者・教員が互いに力を高め合える信頼関係の構

築に努めていただきたい。

イ 地域の特性に応じた持続可能な教育環境を整備するため、各地域の実情に即して、必要に応じた準備委員会の設置など、丁寧な合意形成に努めていただきたい。

ウ 学校の適正規模・適正配置の取組にあたっては、子どもたちの学習環境や生活環境への影響、地域の実情などを考慮し、段階的に進めていただきたい。

エ 通学距離が伸びる場合の児童生徒に対し、通学負担を軽減するため、柔軟な通学手段の確保などの対応をお願いしたい。

オ 学区の境界付近に居住する住民に対しては、通学距離等の事情を踏まえ、隣接する学校を選択できるような柔軟な対応の検討をお願いしたい。

カ 中長期的な視点を持ちつつ、社会情勢や人口動向の変化に合わせ、適宜、計画内容の見直しの検討をお願いしたい。

(2) 学校施設・財政管理

ア 学校施設と他の公共施設との複合化・共用化については、市長部局との緊密な連携のもと、学校が有する地域コミュニティや防災といった多面的な役割を勘案し、地域の学びや交流の拠点として活用できるよう検討をお願いしたい。

イ 学校の適正規模・適正配置により削減された施設維持管理費等の財源は、教育内容の充実や指導体制強化のための予算として継続的な確保を図ることをお願いしたい。

(3) 教育支援・学校運営

ア 学校施設や学校運営における課題については、その状況を勘案しながら、速やかに対応可能な課題から着実に取り組んでいただきたい。

イ 集団の中での「豊かな人間性」と「社会性」の育成を通じて、「自他を尊重し合える関係づくり」を進め、子どもたちが安心して過ごせる環境の整備をお願いしたい。

ウ 確かな学力や課題を発見し解決する力を養うとともに、誰一人取り残さない視点に立ったきめ細やかな教育支援の充実を図ることをお願いしたい。

エ 特別支援教育や不登校児童生徒への支援を充実させ、子どもたち一人ひとりに寄り添った対応をお願いしたい。

オ 幼稚園や保育所、小学校、中学校などの連携を強化し、子どもの発達段階に応じた教育の推進をお願いしたい。

カ 小中一貫教育の形態については、地域の実情や児童生徒数、学校施設の状況等に応じて、最適な形態を選択するよう柔軟な対応をお願いしたい。

キ 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）については、学校の適正規模・適正配置の取組の中で積極的な活用をお願いしたい。

ク 「図書を生かした教育」の充実に向け、まずは図書の定義や役割を明確にした上で、学校司書等の専門スタッフの適切な配置や将来的な学校の図書室の地域開放といった運用の工夫の検討をお願いしたい。

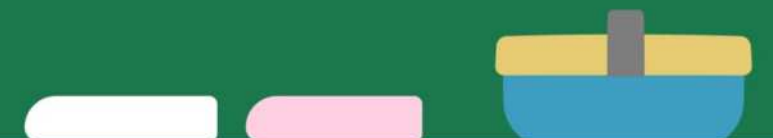
ケ 白岡市の特色を生かした教育について、「図書を生かした教育」以外にも新たな特色を引き続き検討することをお願いしたい。

白岡市の将来の学校づくりに向けた 取組状況について

日 時：令和8年7月25日（土）・26日（日）
午前10時・午後4時

場 所：市内中学校 体育館

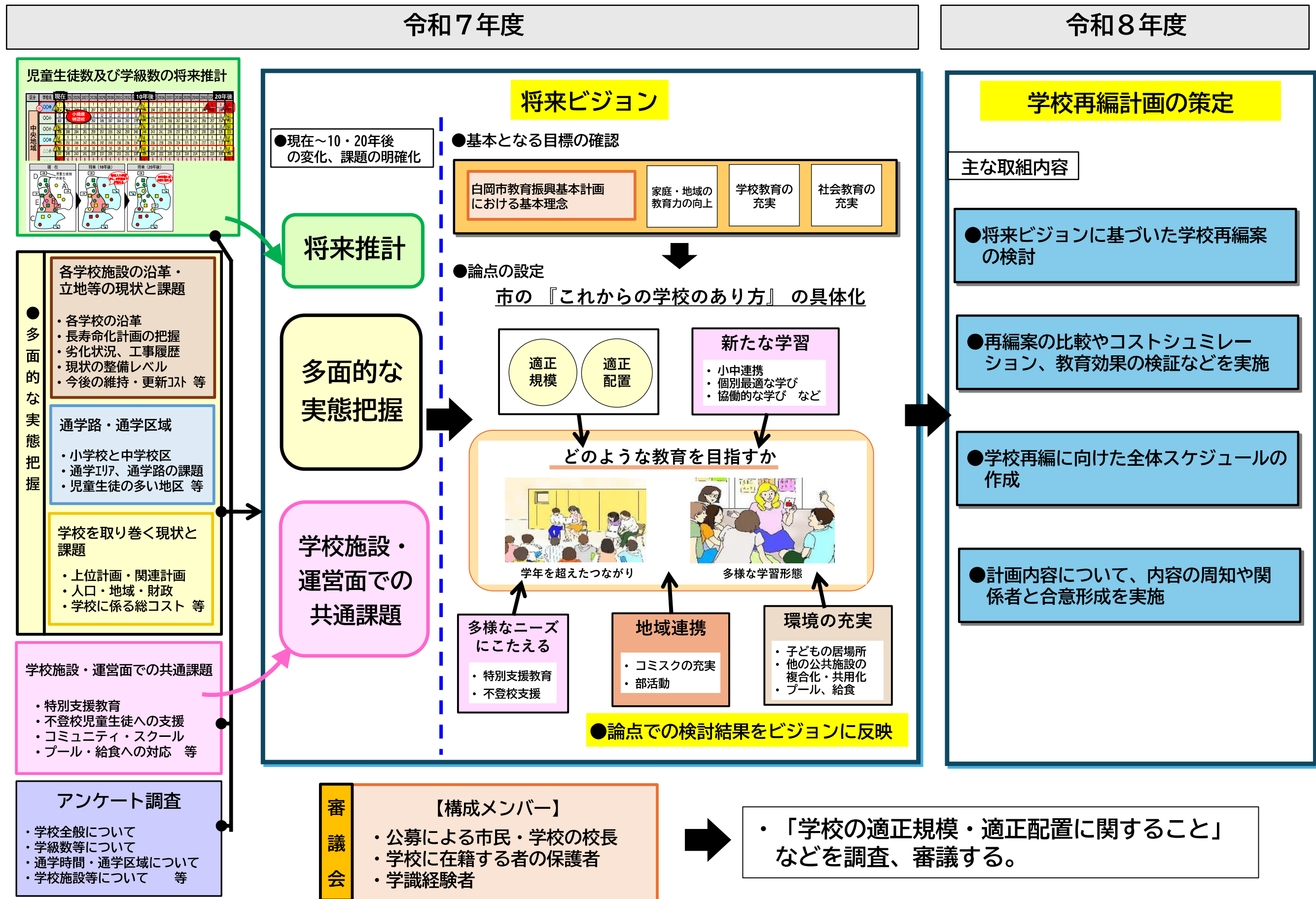
発表者：白岡市教育委員会 魅力ある学校づくり推進室



本日の説明内容

1. 計画策定の流れと進捗状況
2. 学校を取り巻く現状と課題
3. 目指すべき学校のあり方を実現するための
「将来ビジョン」
4. 白岡市全体の学校の適正規模・適正配置の
方向性
5. 今後のスケジュール

1. 計画策定の流れと進捗状況

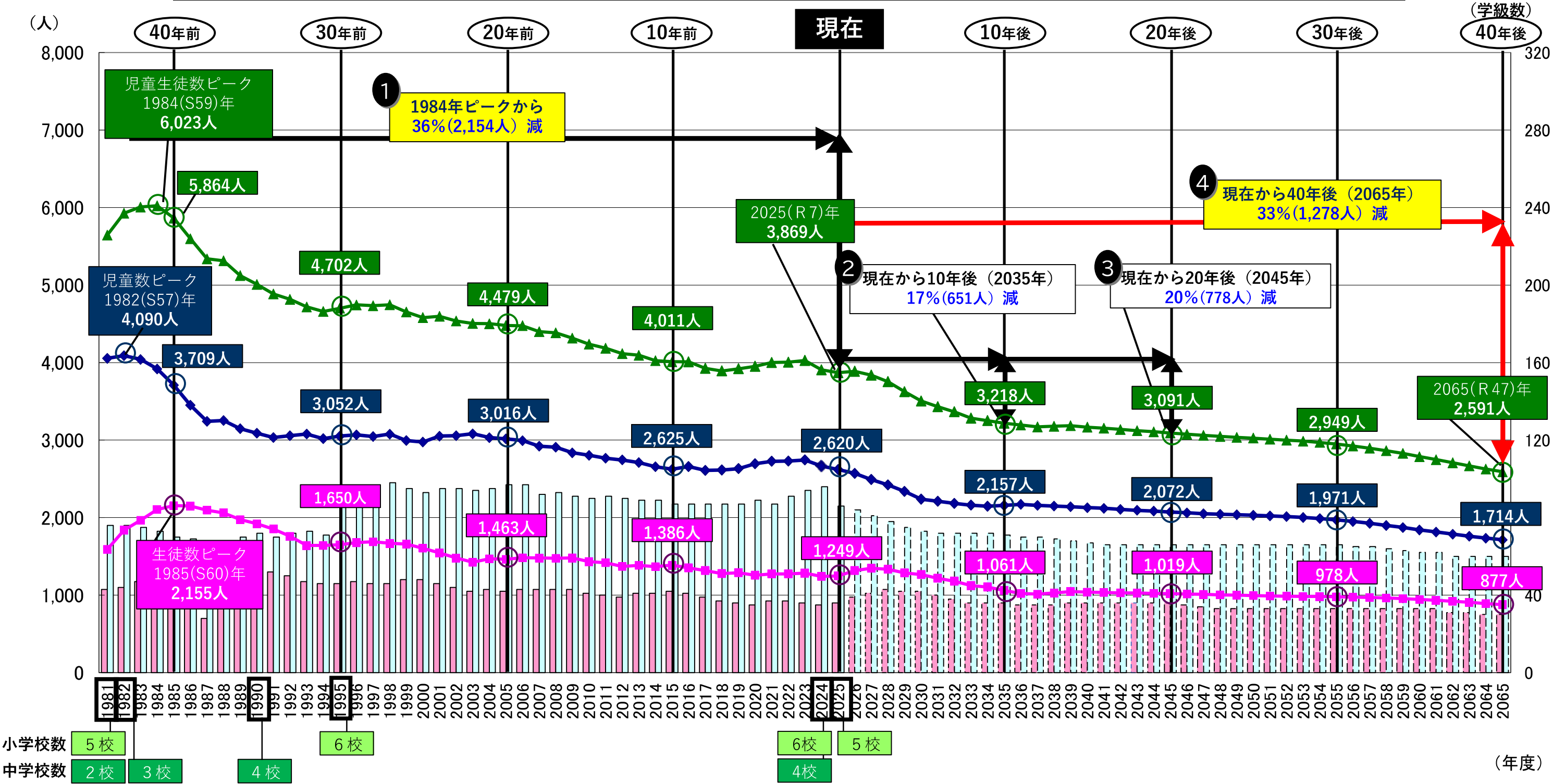


① 市全体の推移

※将来推計は、令和7年7月時点のものとなります。

2. 学校を取り巻く現状と課題

■ 中学校学級数(特支なし) ■ 小学校学級数(特支なし) ▲ 児童生徒数(ALL) ▲ 生徒数(中学校) ▲ 児童数(小学校)



※推計方法：コーホート要因法で推計。コーホート要因法は、自然増減と社会増減の仮定に基づいて、ある年（期間）に生まれた集団の人口変化を一定期間観察することで将来人口を推計する方法である。

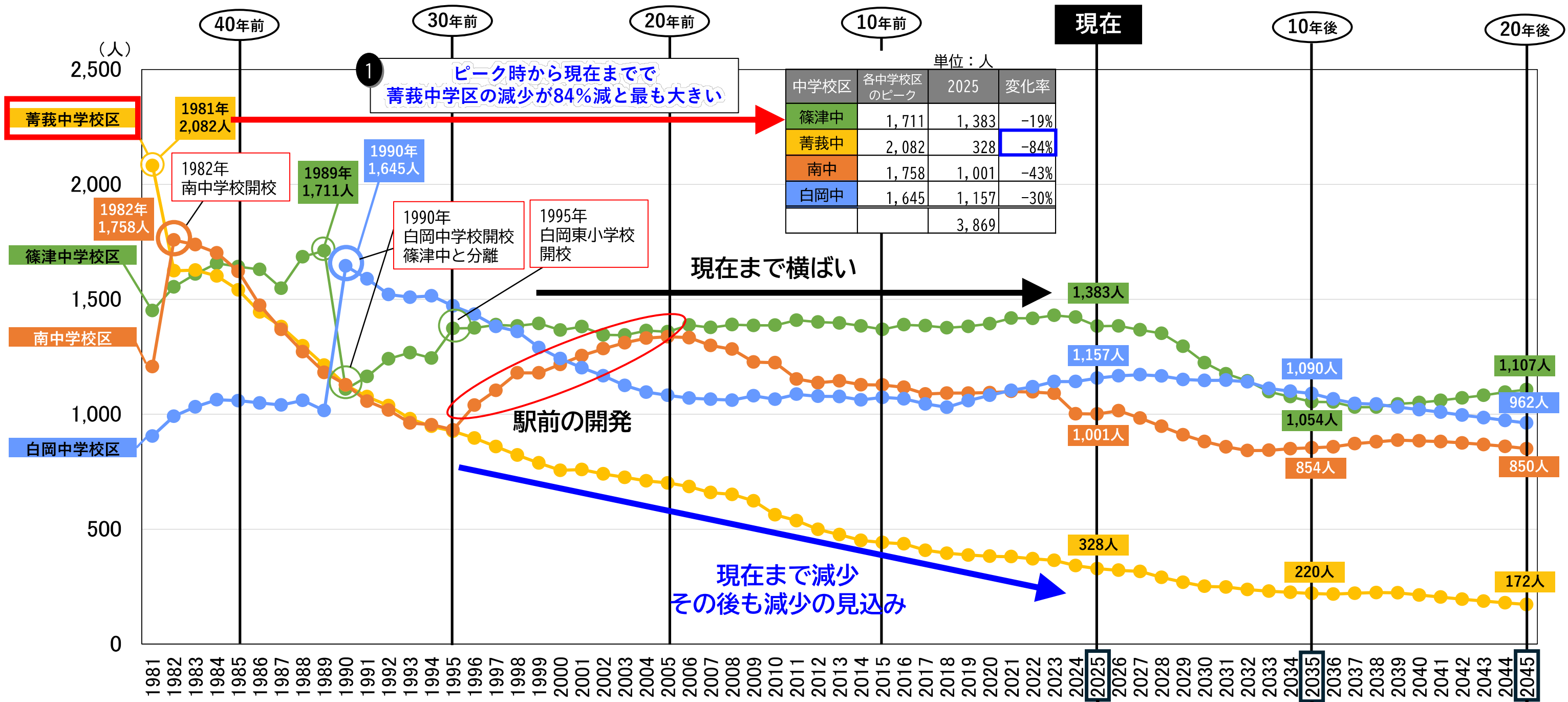
- ① 児童生徒数は、現在（2025年）が3,869人で、1984年のピークから36%（2,154人）減少している。
- ② 現在から10年後の2035年は、17%（651人）減の見込みとなっている。
- ③ 現在から20年後の2045年は、20%（778人）減の見込みとなっている。
- ④ 現在から40年後の2065年は、33%（1,278人）減の見込みとなっている。

・1984年ピークから現在まで36%減少。
・現在から10年後は17%減と減少の幅が大きく、今後も減少する見込みである。

② 中学校区の推移

※将来推計は、令和7年7月時点のものとなります。

2. 学校を取り巻く現状と課題



- ① 菁莪中学校区は、1981年ピークの2,082人から2025年現在328人と、84%減であり、中学校区で最も大きく減少している。
- ② 10年前の2015年から現在の2025年では、菁莪中学校区が26%減と大きく減少している。
- ③ 現在から10年後の2035年は、篠津中学校区が24%減、菁莪中学校区が33%減と大きく減少する見込みとなっている。
- ④ 現在から20年後の2045年は、菁莪中学校区が48%減と現在（2025年）からほぼ半減する見込みとなっている。

②

中学校区 単位：人			
中学校区	2015	2025	変化率
篠津中	1,369	1,383	1%
菁莪中	442	328	-26%
南中	1,127	1,001	-11%
白岡中	1,073	1,157	8%
市全体	4,011	3,869	-4%

③

中学校区 単位：人			
中学校区	2025	2035	変化率
篠津中	1,383	1,054	-24%
菁莪中	328	220	-33%
南中	1,001	854	-15%
白岡中	1,157	1,090	-6%
市全体	3,869	3,218	-17%

④

中学校区 単位：人			
中学校区	2025	2045	変化率
篠津中	1,383	1,107	-20%
菁莪中	328	172	-48%
南中	1,001	850	-15%
白岡中	1,157	962	-17%
市全体	3,869	3,091	-20%

・中学校区によって、児童生徒数の変化傾向が異なっている。

③ 児童生徒数・学級数の変化
(過去～現在)

2. 学校を取り巻く現状と課題 4

20年前		10年前										上段：児童生徒数（人）、下段：普通学級数										現在
学校名	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	
篠津中学校	426	430	429	414	417	412	427	433	430	427	430	433	443	444	454	436	450	453	466	445	425	
	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	
篠津小学校	405	415	412	443	431	441	445	464	478	469	477	481	485	473	461	483	485	479	472	480	480	
	14	14	12	13	13	13	14	14	14	15	15	15	17	17	16	16	15	16	15	16	16	
白岡東小学校	528	543	536	533	538	534	537	504	489	488	462	475	457	459	467	475	483	485	492	497	478	
	18	18	18	18	18	17	17	16	16	16	15	15	14	15	14	14	15	16	17	18	17	
白岡中学校	404	405	389	378	388	379	398	367	379	368	401	384	372	353	355	351	318	313	316	338	369	
	12	12	12	12	12	11	11	10	11	11	12	11	11	10	9	9	9	9	9	9	10	
西小学校	565	549	559	570	581	585	587	611	606	604	598	615	609	613	643	679	726	742	767	758	788	
	18	18	18	18	18	18	19	19	18	19	18	18	18	18	19	20	21	22	23	24	24	
大山小学校	113	116	117	113	111	101	102	100	92	90	74	68	64	64	61	52	60	64	59	46	46	
	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
菁莪中学校	225	216	245	236	240	207	207	190	173	177	171	163	138	123	126	124	137	137	134	117	103	
	6	6	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	6	6	5	4	4	
菁莪小学校	476	469	414	415	383	355	330	309	303	274	271	273	270	272	261	258	243	234	230	224	225	
	15	15	12	14	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11	9	8	9	9	8	
南中学校	408	431	416	448	435	435	387	381	402	396	384	371	364	358	353	347	370	372	368	342	352	
	12	13	12	12	12	12	11	11	12	12	12	12	10	10	10	9	10	10	10	10	10	
南小学校	929	902	883	835	792	789	766	756	743	732	743	746	724	734	739	747	729	725	723	660	649	
	26	26	26	24	24	24	23	23	23	22	22	22	21	20	21	22	21	23	24	23	21	

※大山小学校は令和7年3月31日をもって閉校。

小学校：5学級以下
中学校：2学級以下

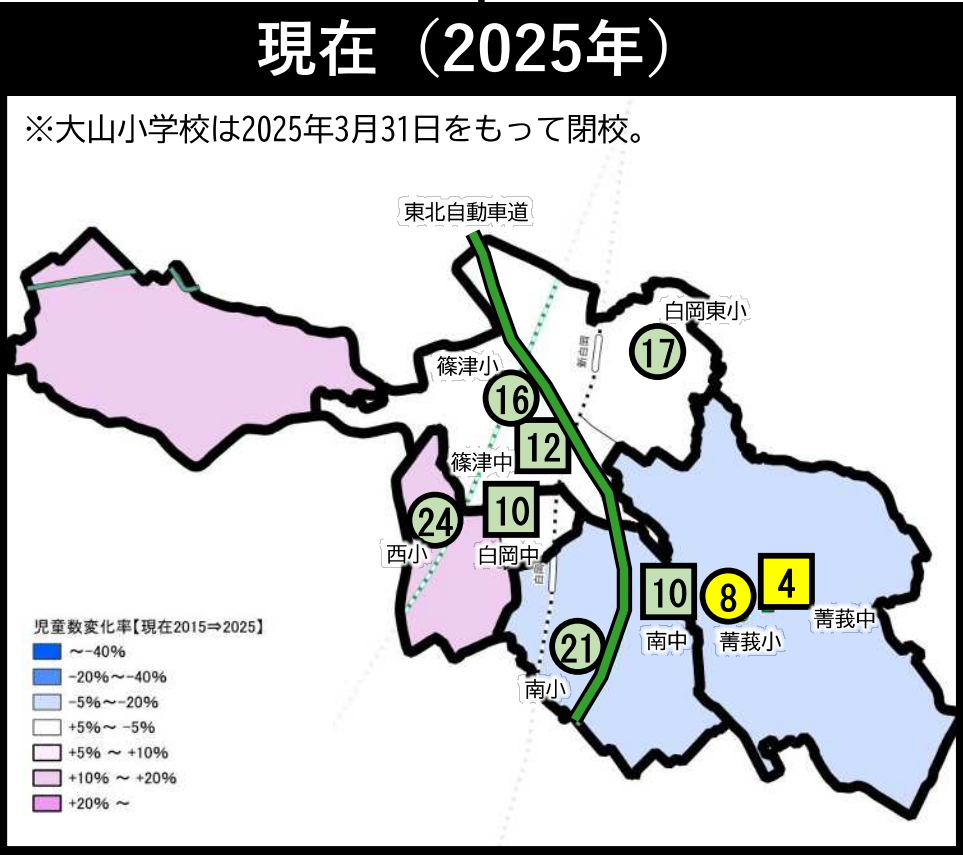
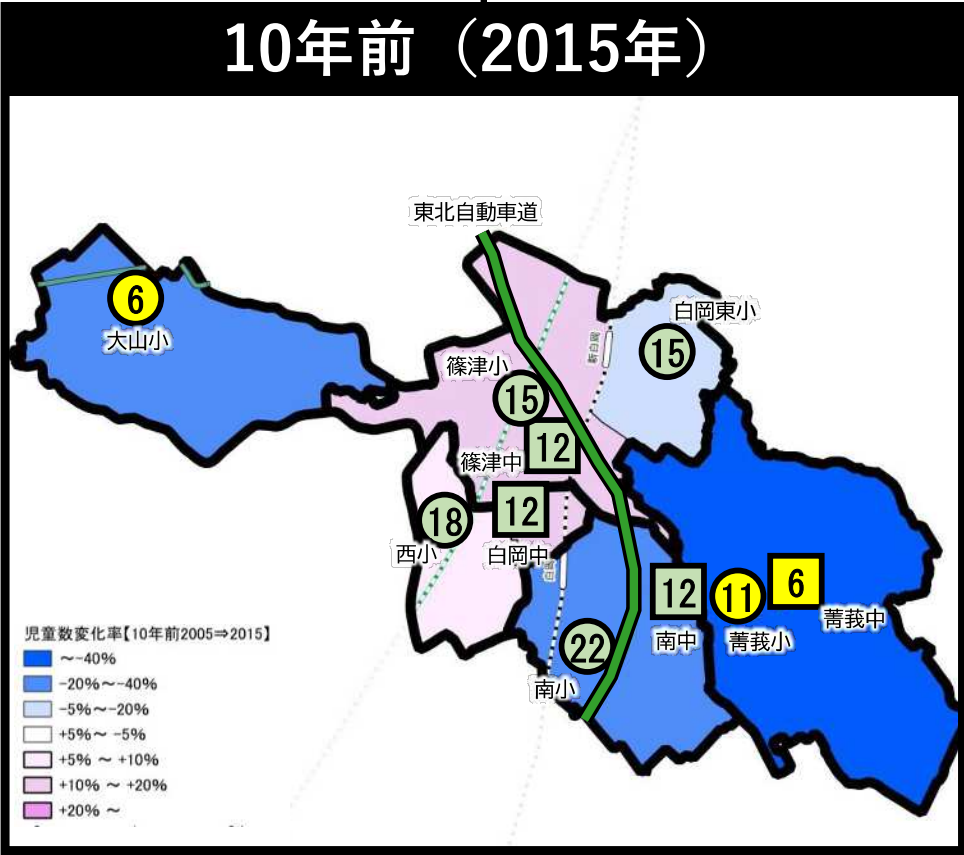
小学校：6学級～11学級
中学校：3学級～8学級

小学校：25学級以上
中学校：19学級以上

地図凡例

中学校区

小学校
中学校(通常学級)
●: 5学級以下
●: 6～11学級
●: 12～24学級
●: 25学級以上
■: 2学級以下
■: 3～8学級
■: 9～18学級
■: 19学級以上
○□: 小規模一歩手前



・小学校単位では、最も規模が大きい学校が南小学校から西小学校へ変わっており、児童数が多い地域間においても地域による差が発生している。

④ 児童生徒数・学級数の変化
(将来推計)

※将来推計は、令和7年7月時点
のものとなります。

2. 学校を取り巻く現状と課題

	現在										10年後	上段：児童生徒数（人）、下段：普通学級数										20年後
学校名	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24	R25	R26	R27	
	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	
篠津中学校	425 12	461 13	491 14	498 15	471 14	451 14	429 13	422 13	385 12	381 12	363 12	347 11	324 11	318 11	325 12	324 12	324 12	326 12	329 12	333 12	337 12	
篠津小学校	480 16	454 16	437 15	424 14	427 14	407 13	397 12	392 12	387 12	387 12	384 12	391 12	393 12	397 12	400 12	402 12	405 12	407 12	408 12	410 12	411 12	
白岡東小学校	478 17	469 16	439 15	430 14	397 13	366 12	350 12	331 12	326 12	308 12	307 12	315 12	314 12	316 12	320 12	325 12	331 12	338 12	345 12	353 12	359 12	
白岡中学校	369 10	385 11	388 12	374 12	364 12	389 13	393 13	392 13	377 12	386 12	376 12	364 12	352 12	357 12	353 12	351 12	349 12	346 12	343 12	339 12	334 12	
西小学校	788 24	782 24	784 24	792 24	787 24	758 24	755 24	749 24	735 24	714 24	714 23	702 22	695 22	687 21	678 20	669 19	660 18	650 18	642 18	634 18	628 18	
大山小学校																						
菁莪中学校	103 4	108 4	112 4	103 4	104 4	100 4	100 4	90 3	84 3	70 3	59 3	53 3	65 3	74 3	80 3	76 3	72 3	69 3	66 3	63 3	61 3	
菁莪小学校	225 8	213 7	204 7	187 7	165 6	151 6	148 6	147 6	146 6	155 6	161 6	164 6	156 6	150 6	143 6	137 6	132 6	126 6	121 6	116 6	111 6	
南中学校	352 10	363 11	356 11	359 12	348 12	326 11	297 10	277 9	276 9	268 9	263 9	258 9	272 9	280 9	288 9	288 9	289 9	289 9	289 9	288 9	287 9	
南小学校	649 21	652 21	627 20	588 19	562 18	555 18	561 18	565 18	567 18	582 18	591 18	600 18	600 18	600 18	599 18	596 18	592 18	586 18	579 18	572 18	563 18	

※大山小学校は2025年3月31日をもって閉校。

- 小学校：5学級以下
中学校：2学級以下
- 小学校：6学級～11学級
中学校：3学級～8学級
- 小学校：25学級以上
中学校：19学級以上

地図凡例

中学校区

小学校

中学校(通常学級)

●: 5学級以下

■: 2学級以下

●: 6～11学級

■: 3～8学級

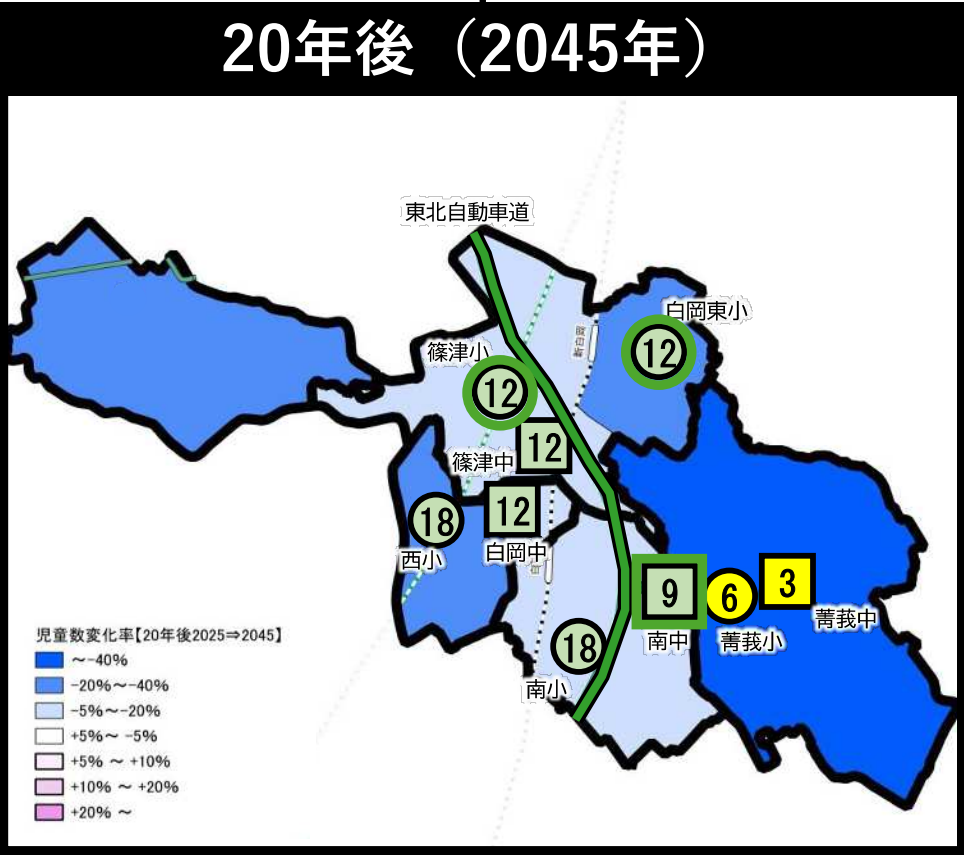
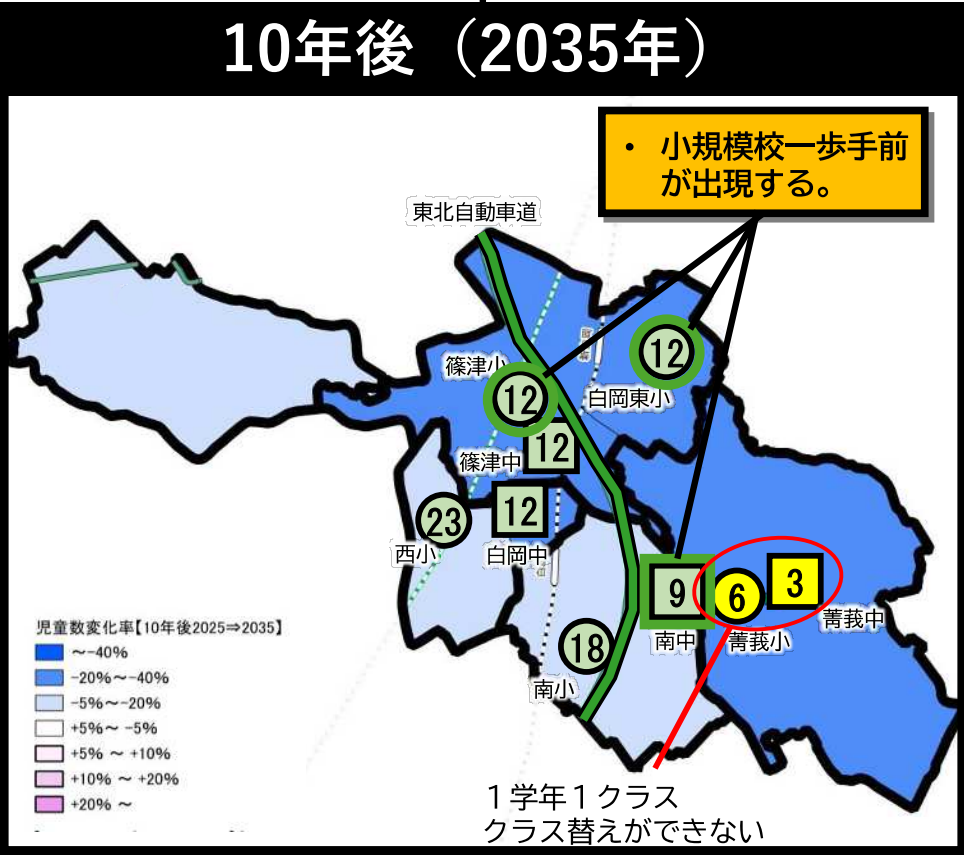
●: 12～24学級

■: 9～18学級

●: 25学級以上

■: 19学級以上

○□: 小規模一歩手前



・今後20年間では、菁莪小学校・中学校が
全学年でクラス替えのできない学級数と
なる。

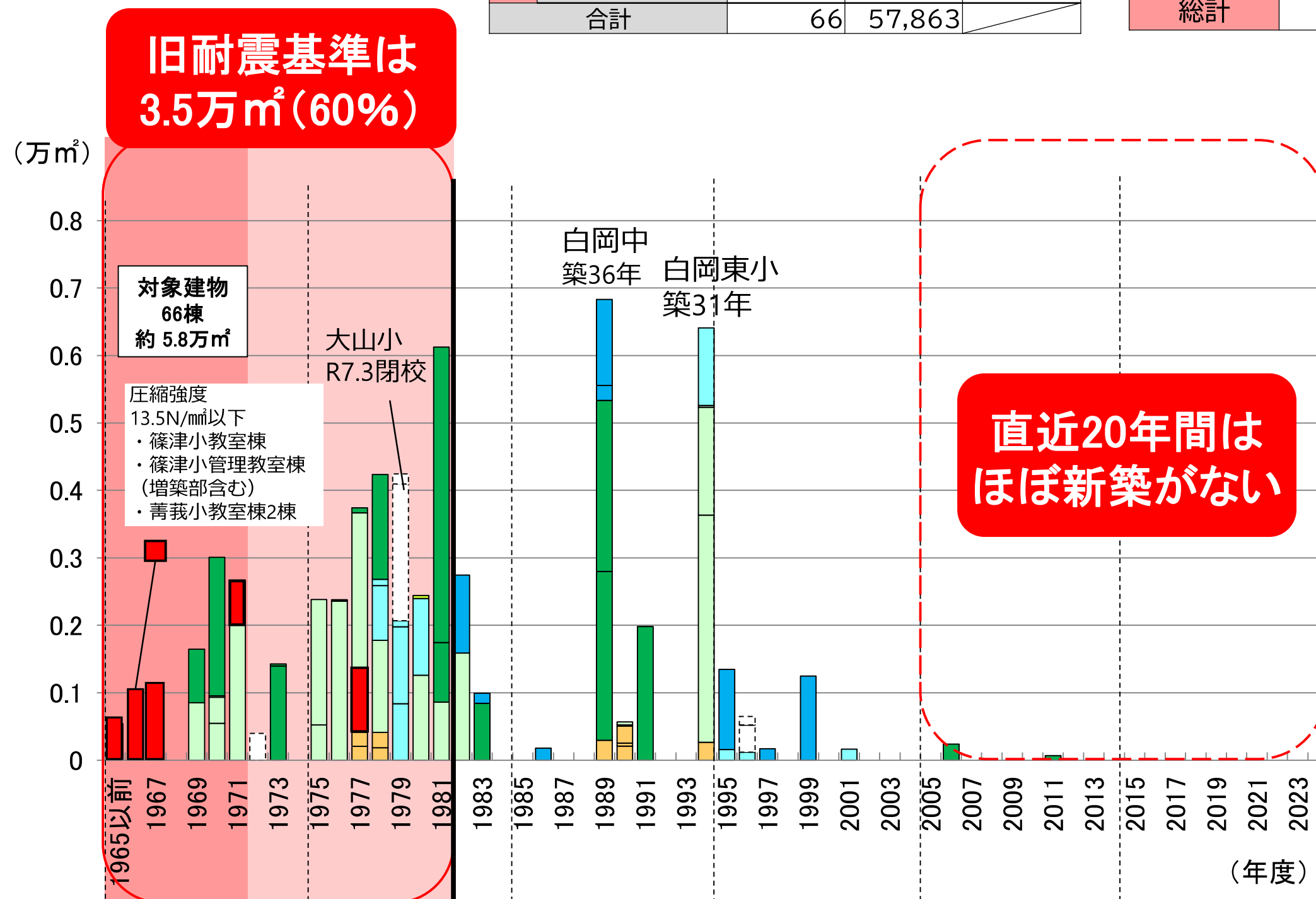
・築年別整備状況

	棟種	校種	棟数 (棟)	延床面積 (㎡)	割合
対象棟	校舎	小学校	19	25,211	43.6%
		中学校	12	19,229	33.2%
	総計		31	44,440	76.8%
	体育館	小学校	5	5,081	8.8%
		中学校	8	5,588	9.7%
	総計		13	10,669	18.4%
	給食室		10	1,912	3.3%
	付属屋※		12	842	1.5%
	合計		66	57,863	

校種別

棟種	施設数	棟数 (棟)	延床面積 (㎡)	割合
小学校	5	39	32,119	55.5%
中学校	4	27	25,743	44.5%
総計	9	66	57,863	

※渡り廊下・プール付属屋・体育倉庫等



- ・ 旧耐震基準の棟が延べ3.5万㎡が全体の60%を占める。
全て耐震補強済。
- ・ 耐震診断時の圧縮強度が13.5N/㎟を下回る建物が5棟あり、それらは建替えが必要。
- ・ 最も新しい白岡東小でも築30年以上経過しており、それ以降の校舎の新築はほとんどない。

● 財政、コスト面

「白岡市個別施設計画（学校教育系施設の長寿命化計画）」（令和2年2月）に算定したコストについて以下の条件で現時点を更新する。

- ① 近年の工事費上昇をふまえて単価を見直し
- ② 過去5年間で計画していたが、実施されていない工事（篠津小の建替え含め69.8億円）を2026年に計上
- ③ 低圧縮強度の篠津小・菁莪小校舎の早期建替え
- ④ 2050年以降に築80年を迎える建物の建替え費を計上

● 算定条件

単価

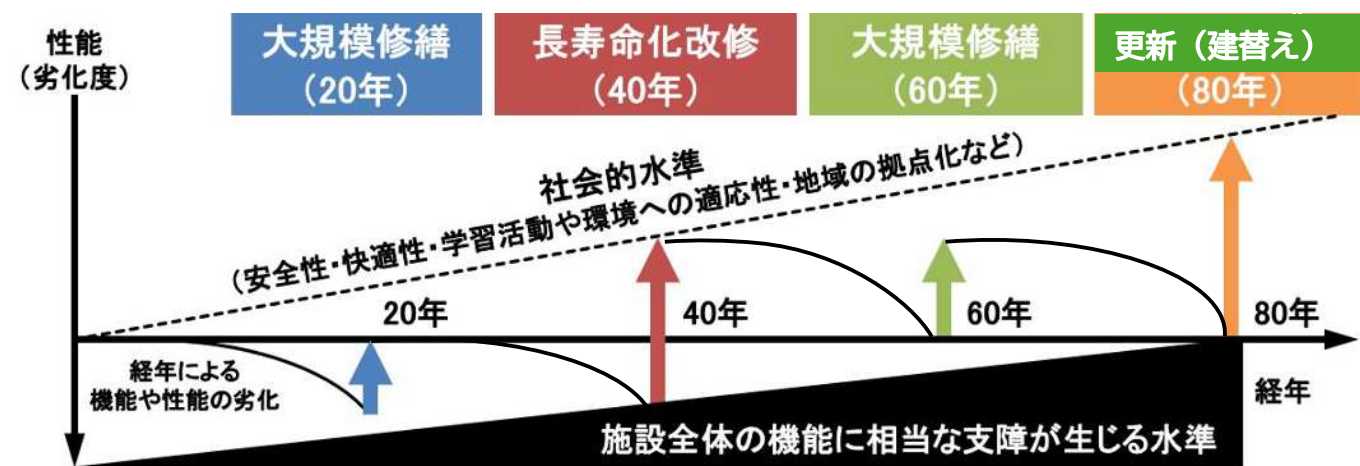
工種	現計画		見直し (他市実績由来)
	校舎	体育館	
改築	31.88万円/㎡	36.29万円/㎡	70.0万円/㎡
長寿命化改修	19.12万円/㎡	21.7万円/㎡	40.0万円/㎡
大規模修繕	11.1万円/㎡	7.6万円/㎡	18.0万円/㎡

工事単価の見直し
(建替え単価は
校舎で2.2倍)

工事費高騰の主な要因

- ・ 物価上昇
- ・ 人手不足
- ・ 働き方改革（週休二日制導入等）による工期長期化
- ・ 求められる整備水準の上昇（ZEB化/バリアフリー等）

● 改修サイクル



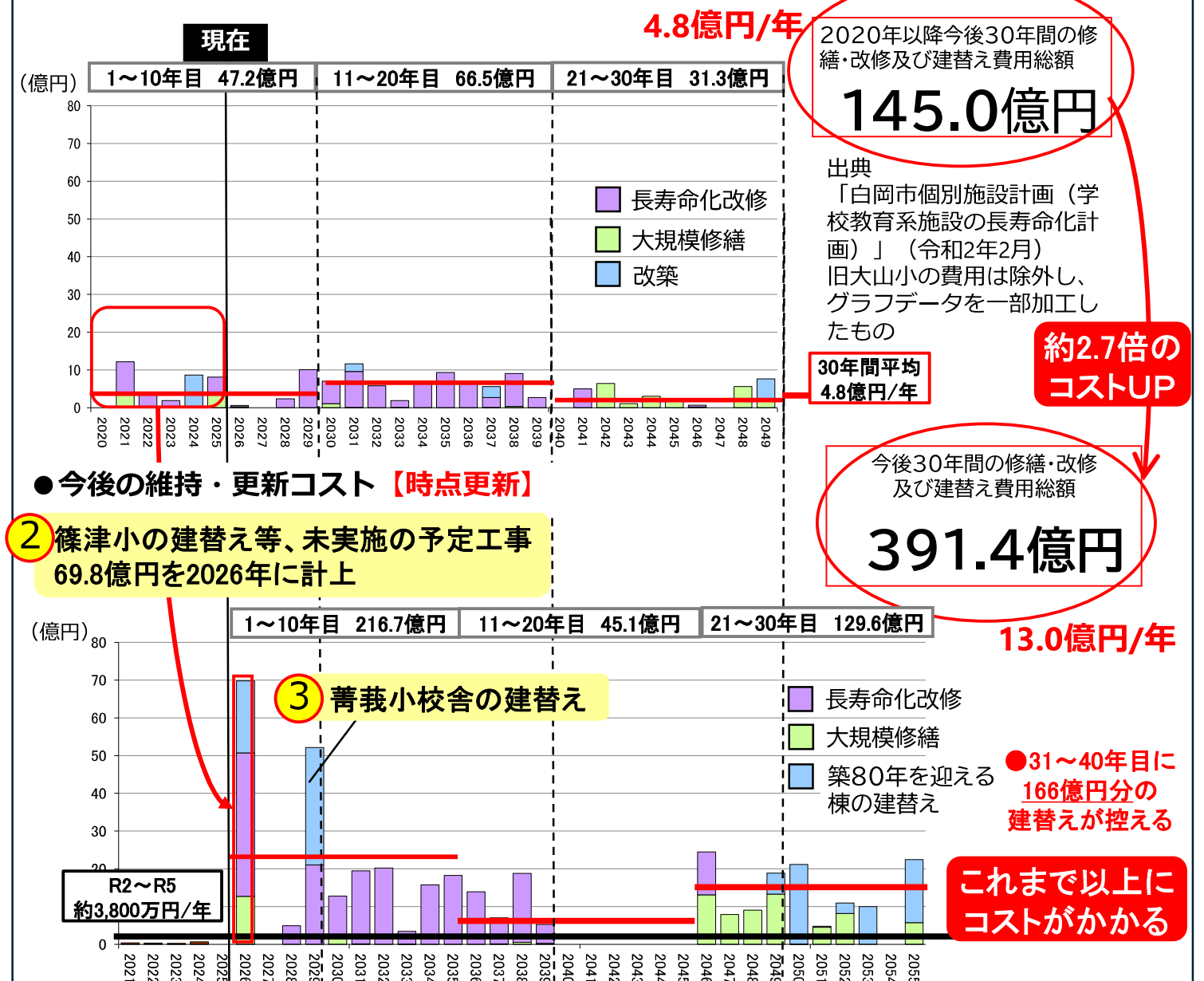
※躯体の圧縮強度が13.5N/mm²以下の篠津小・菁莪小の校舎は60年

出典
「白岡市個別施設計画（学校教育系施設の長寿命化計画）」（令和2年2月）

2. 学校を取り巻く現状と課題

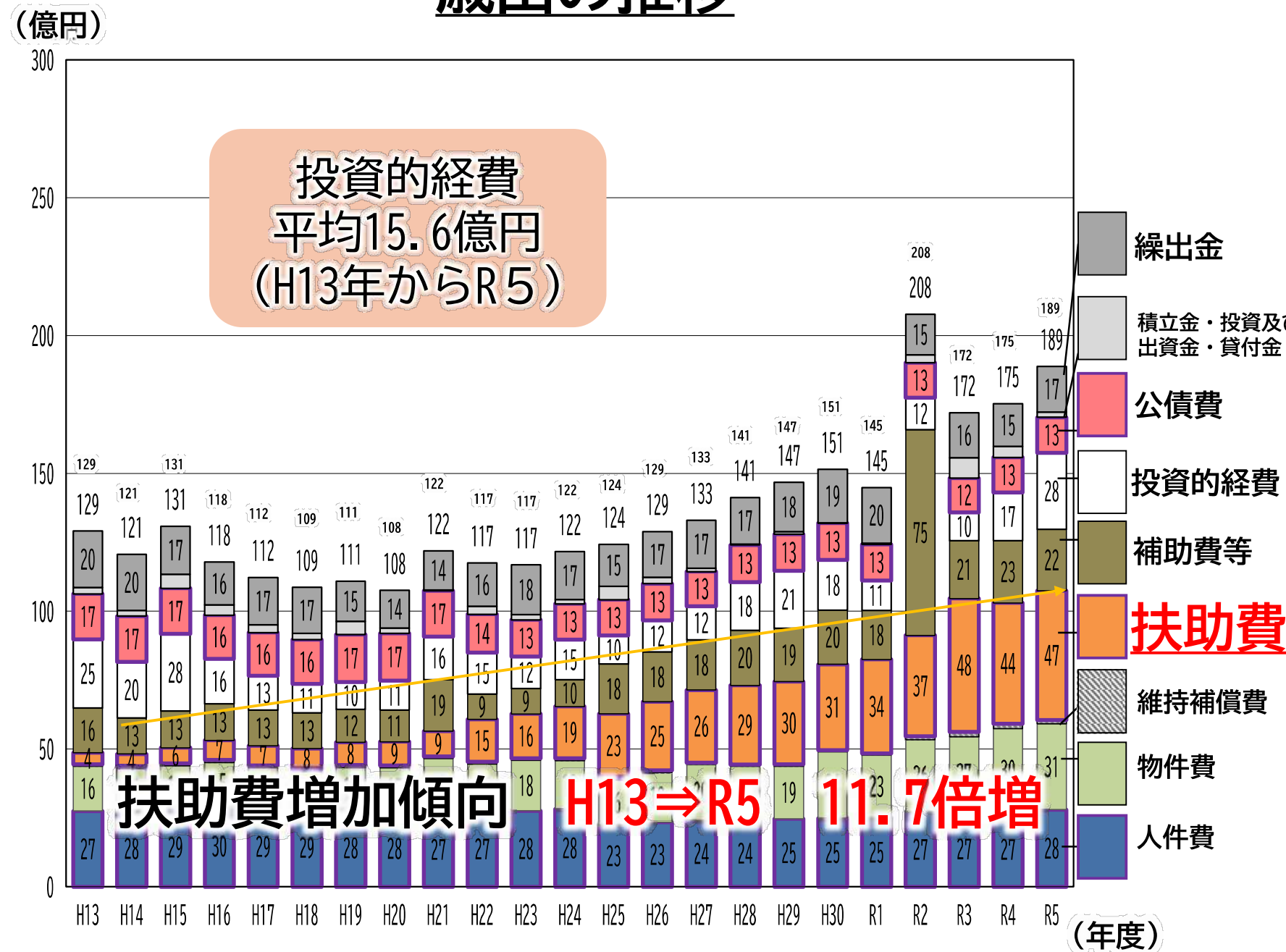
- ・ 結果、今後30年間(2026年～2055年)で必要となる修繕・改修建て替え費用は**391.4億円(13.0億円/年)**となる。
- ・ 個別施設計画策定時における試算は、145.0億円(4.8億円/年)であったため、比較すると**約2.7倍のコスト増**となる。

● 今後の維持・更新コスト【白岡市個別施設計画（学校教育系施設の長寿命化計画）】



過去かけてきた予算を大幅に上回る費用のため、学校施設の安全確保と教育環境向上のためには更なるコスト縮減と財源確保の検討が必要

歳出の推移



公共施設等更新費用推計

H27年度から60年間の将来コスト総額
1,556億円
↓
25.9億円/年

23年間（H13年度～R5年度）の平均施設関連経費
15.6億円/年

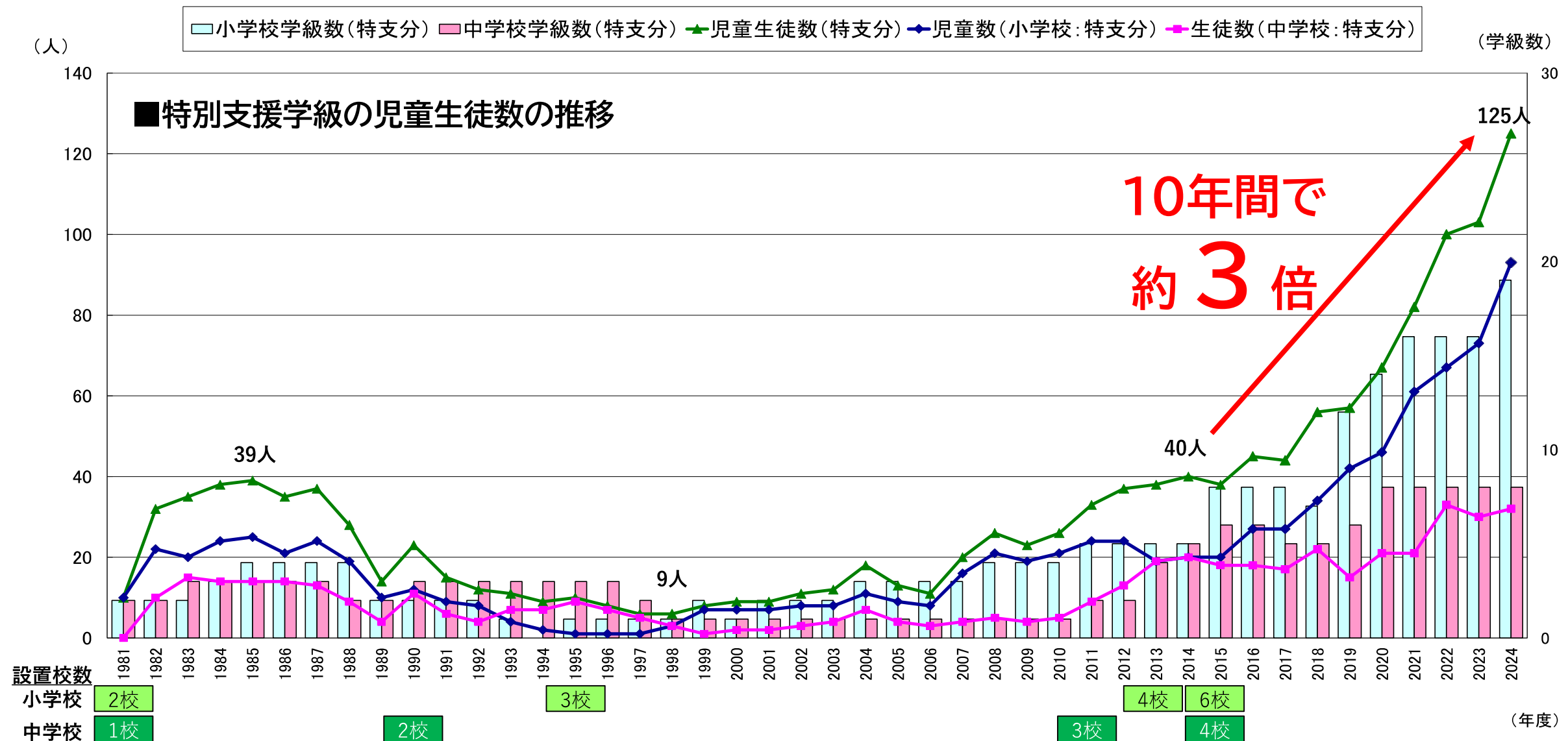
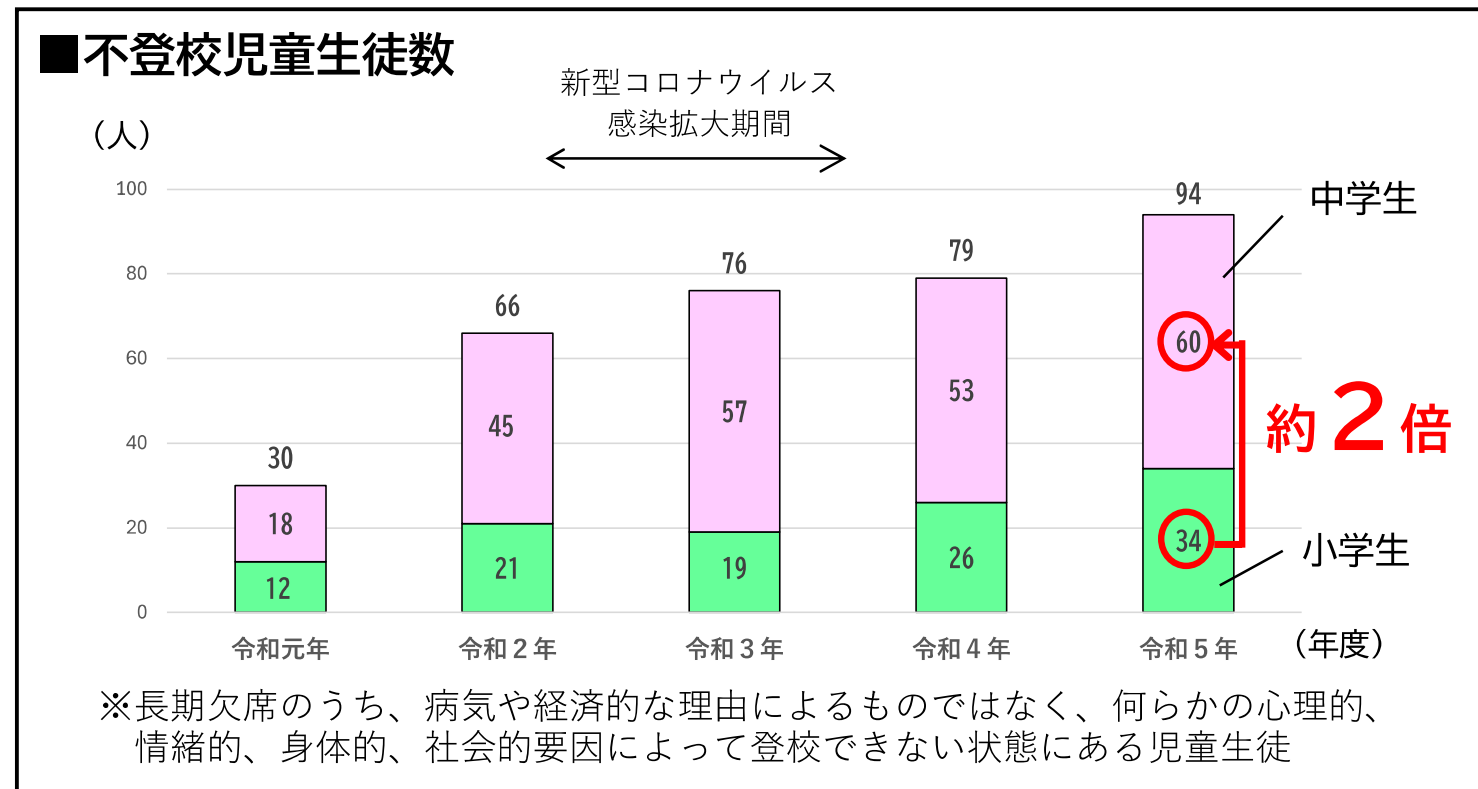
将来コストに対し、
年間で**10.3億円**の不足

出典：白岡市公共施設等総合管理計画（令和4年3月一部改訂）

- 公共施設に充当できる財源は限られている一方で、学校施設の老朽化が進行し、それを維持するためのコスト増が今後も見込まれる。

● 主な教育課題

2. 学校を取り巻く現状と課題



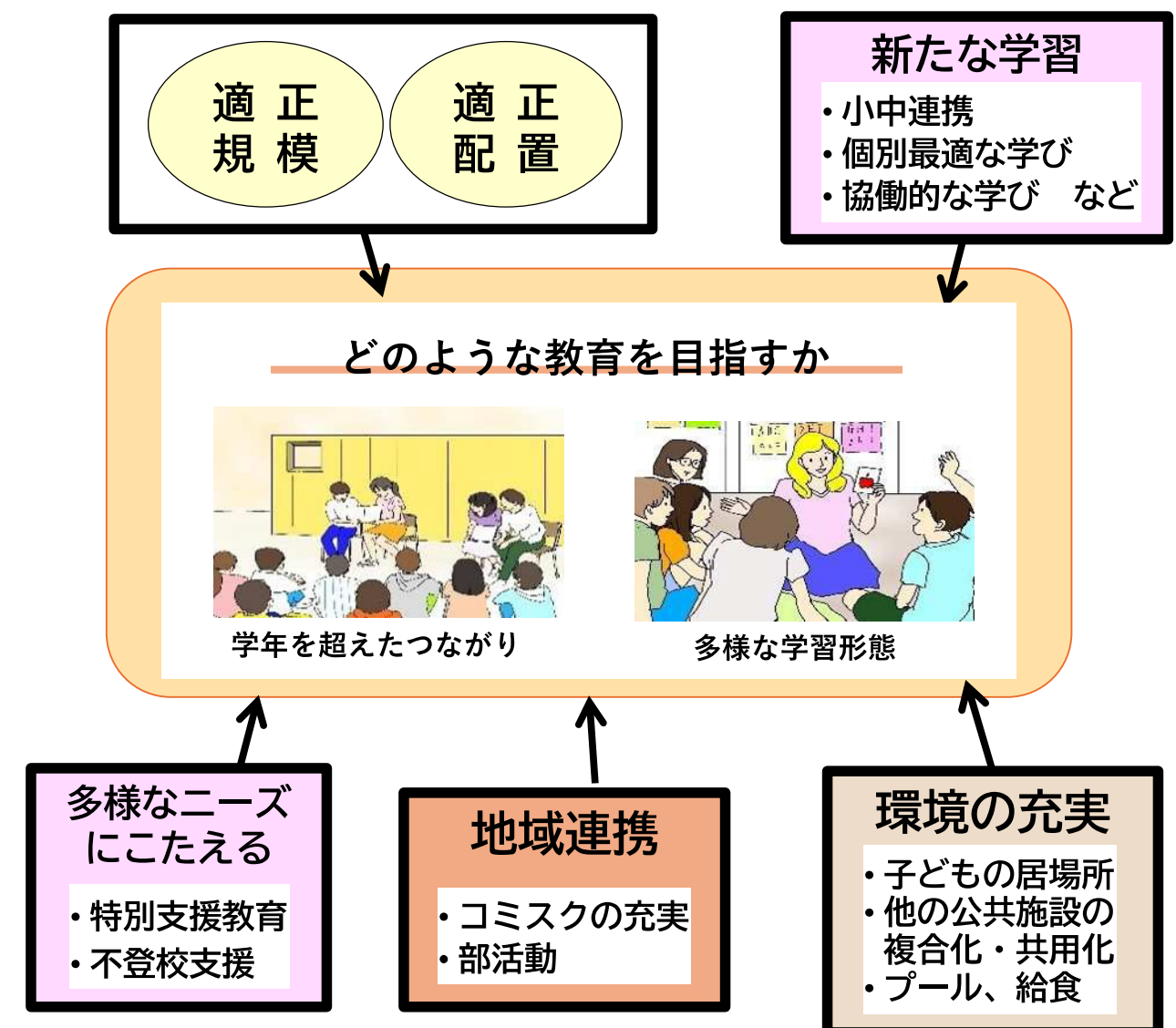
① 議論の背景と目的

- ・ 児童生徒数の将来推計や学校施設の現状を踏まえ、将来の学校のあり方を幅広く検討
- ・ 児童生徒一人ひとりの資質・能力を最大限に伸ばせる環境づくりを追求

② 検討の柱となった5つの論点

- (1) 学校の適正規模・適正配置
- (2) 新たな学習
- (3) 多様なニーズにこたえる
- (4) 地域連携
- (5) 環境の充実

市の『これからの学校のあり方』の具体化



3. 目指すべき学校のあり方を実現するための「将来ビジョン」

図表 各論点における教育上の課題等と今後の方向性等

論点	教育上の課題等	今後の方向性等	
適正規模・適正配置	適正な学校規模の確保	適正規模	小学校:18学級～24学級 (1学年当たり3～4学級) 中学校:12学級～18学級 (1学年当たり4～6学級)
		適正配置 (通学距離、通学時間)	小学校:おおむね4km以内、 おおむね1時間以内 中学校:おおむね6km以内、 おおむね1時間以内
新たな学習	少人数指導・教科担任制	○少人数指導や教科担任制の充実による、個に応じた児童・生徒へのきめ細やかな支援を推進する。ただし、教職員数の確保については、国・県へ要望していく。	
	チーム担任制	○学級担任を固定せずに、複数の教員で対応する学級運営のあり方について、今後研究していく。	
	個別最適な学びと協働的な学び	○引き続き、個別最適な学びや協働的な学びの一体的な充実を図っていく。 ○ICTの特性や強みを生かしたきめ細かな教育を推進する。	
	小中連携	○小学校から中学校までの9年間を一貫した成長期間として捉え、「学び」と「育ち」の連続性を確保し、小中連携のもと、途切れない成長の実現を目指す。	
多様なニーズにこたえる	特別支援教育	○一人一人の教育ニーズに応えられるよう、特別支援学級等の体制及び環境整備の充実を図る。 ○通級指導教室未設置校の児童が参加しやすくなるよう、巡回型の通級支援等についても検討を進める。	
	不登校支援	○学校には登校できるが、教室までは行けない子どもへの支援のため、教育相談体制などの一層の充実を図る。 ○学校に来られない子どもに対しては、学校とのつながりを維持するため、居場所づくりや学習機会などの提供に努める。	

論点	教育上の課題等	今後の方向性等
地域連携	コミュニティ・スクール	○家庭、地域、学校、行政がさらに連携し、地域全体が一体となって子どもを育てる「開かれた学校」の実現を目指す。
	部活動	○平日を含めた部活動の地域展開について、持続可能な運営のあり方などの検討を進めていく。
環境の充実	学校教育施設	○老朽化対策や大規模改修など築年数に応じた整備を実施する。 ○学校再編を含め、施設の整備レベルを見直し、施設の機能向上による学習環境の充実を図る。
	他の公共施設の複合化・共用化	○市長部局と連携しながら、学校施設と集会施設、学童保育施設などの公共施設の複合化・共用化を推進し、学校を地域の学び、交流などの拠点として活用する。
	プール	○学校間のプールの共用化に加え、近隣の民間プールなどの利用も視野に入れ、効率的かつ持続可能な学校運営を実現できるよう検討する。
	給食	○学校再編も踏まえ、給食方式のあり方について今後も検討していく。

① 審議会の議論を具現化する体系

- ・ 5つの論点での検討結果を土台とし、目指す学校のあり方を実現するための **3つの柱** を策定

② 3つの柱の構成

一人ひとりが輝く「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

地域とともに育む「協働と創造の学び」の推進

安心・安全で「快適な学校環境」の実現

3. 目指すべき学校のあり方を実現するための「将来ビジョン」

柱1

一人ひとりが輝く「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

【個別最適な学びと協働的な学び、ICT教育】



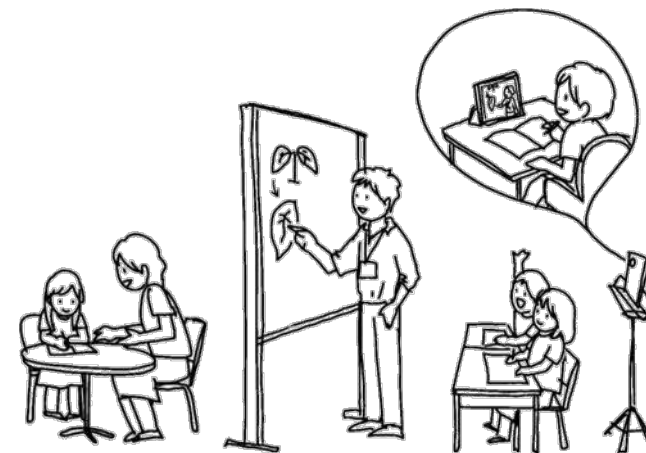
- 室内には、タブレットを使いこなす子ども、紙のノートで考える子ども、先生と対話しながら学ぶ子どもが共存。
- グループワークを取り入れた学習を実施。

【少人数指導、特別支援教育】



- 担任の先生だけでなく、教科担当の先生や支援員などがチームとなり、一人ひとりの子どもの成長に寄り添いながら支援。

【不登校支援】



- 一人ひとりの状況に応じた支援がしやすい環境の推進。
- 学校に来られない子どもはICTを活用した支援を実施。

【小中連携】



- 小学生と中学生が一緒にふれあいながら活動。
- 年齢の違いを超えて学び合う異学年交流。

柱2

地域とともに育む「協働と創造の学び」の推進

【地域を題材とした探究学習】



- 地元の商店街や工場で、子どもたちがインタビューや実習を行い、メモ帳やタブレットを使いながら主体的に学習。

【コミュニティ・スクール】



- 学校を地域とつなぐ拠点とし、家庭・地域・学校が連携した学びと交流を進める。

【体験活動】



- 体験活動を通して、子どもたちは地域の人々や仕事、文化に触れ、学ぶことの楽しさや社会とのつながりを実感。

【地域に還元する創造の学び】



- 地域のお祭りなどのボランティア活動を通して、世代を超えた交流が生まれ、地域への愛着を深める。

3. 目指すべき学校のあり方を実現するための「将来ビジョン」

柱3

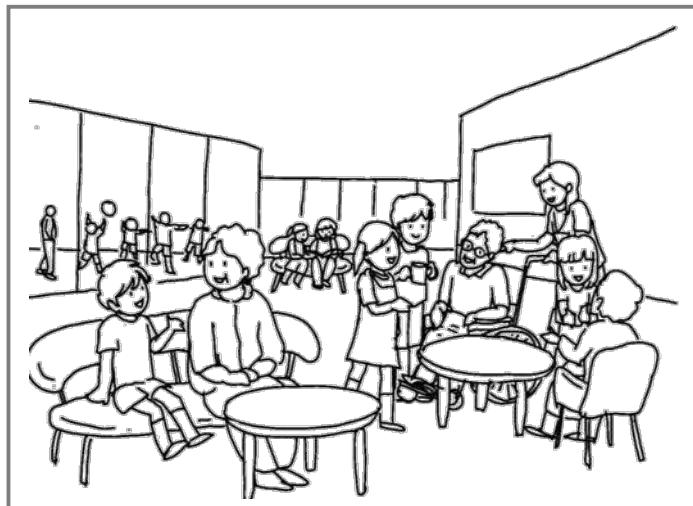
安心・安全で「快適な学校環境」の実現

【多様な学びを支える 学習空間】



- 壁を取り払った広いオープンスペースで、複数のクラスが合同授業の実施。
- 可動式の机を活用し、子ども同士が協働するグループワークを実施。

【複合化・共用化による コミュニティの拠点】



- 子どもたちや高齢者など幅広い世代の方々が、同じスペースで交流。
- 子どもたちにとって、学校が「安全な場所」として機能。

【教職員の働き方改革】



- 教職員の働き方改革につながる学校づくりと、ICT活用や役割分担の見直しによる業務負担の軽減。

【学校施設の老朽化対策 の推進】

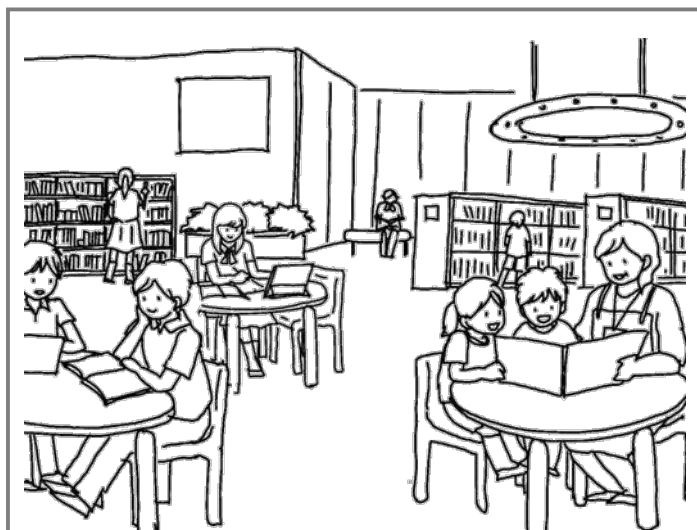


- 災害時には避難・救護拠点として機能するよう、地域の防災力向上にも配慮した学校づくりに取り組む。

特色

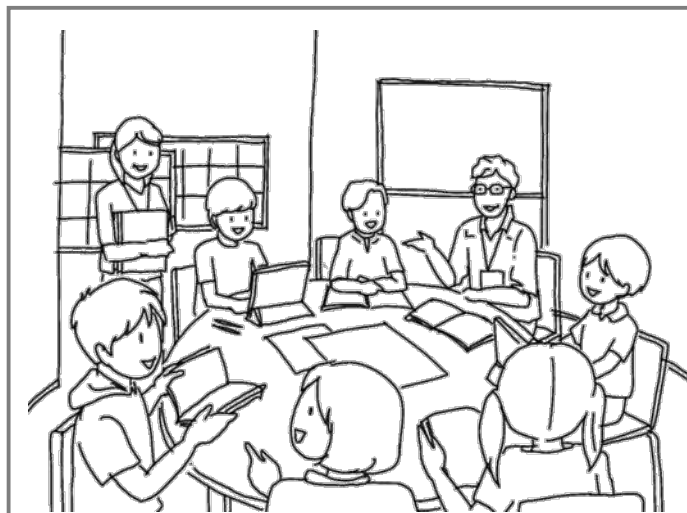
図書を生かした教育

【学校の図書室での地域との交流】



- 学校の図書室を活用し、地域の人が集い、世代を超えた交流と学びを実施。

【学校の図書室を活用した授業】



- 担任の先生と司書教諭が関わり、資料やタブレットなどを活用しながら子どもたちが学びを深める。

【生涯学習センターの活用】



- 専門家を招いた市民講座、読み聞かせイベント、本に関する発表会などを開催。

● 特色として考えた背景・理由

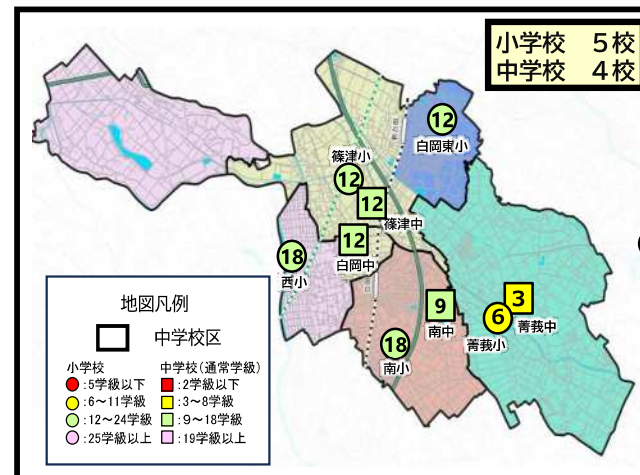
- 「学び楽しむまちづくり」を基本理念に、家庭、地域、学校が一体となって子どもを育んできた豊かな土壌がある。
- 人口一人当たりの図書貸出実績県内3位など、住民が積極的に学びに関わっており、大きな財産となっている。

● 学校教育と生涯学習のさらなる融合

- 生涯学習センターが持つ情報や知見を授業や学習の中で効果的に活用していく。
- 子どもたちが自らの興味を深める探究的な学びを支える環境を整備していく。

4. 白岡市全体の学校の適正規模・適正配置の方向性

● 適正規模・適正配置案【20年後（2045年）】 ※ 各パターンの地図は、具体的な学校名や設置場所を示すものではありません。



- 20年後の将来推計の児童生徒数の数値を適正規模の基準に照らし合わせ、想定される学校数を算出

児童数 → $2,072人 \div 35 = 59.2$ 約60学級
 適正規模の基準: 小学校 18~24学級
想定学校数: 3~4学校

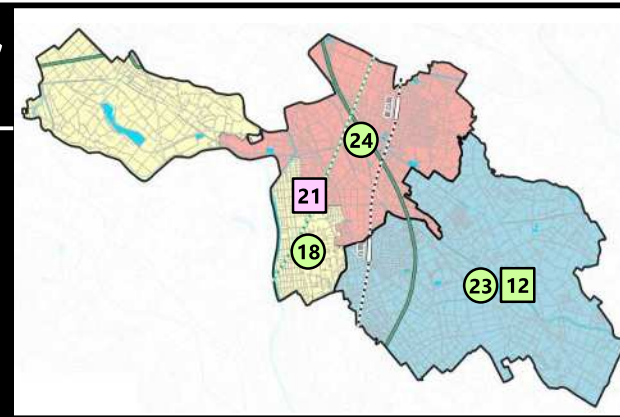
生徒数 → $1,019人 \div 35 = 29.1$ 約30学級
 適正規模の基準: 中学校 12~18学級
想定学校数: 2~3学校

適正規模・適正配置検討条件

- ① 学校の適正規模の確保
 小学校: 18~24学級
 中学校: 12~18学級
- ② 学校の適正配置の確保
 【通学距離】
 小学校: おおむね4km以内
 中学校: おおむね6km以内
 【通学時間】
 小中ともにおおむね1時間以内
- ③ 現在の学校区を考慮
- ④ 小中一貫教育の推進
 ・小中一貫校や義務教育学校などの手法を取り入れる

パターン①

小学校 3校
 中学校 2校



メリット

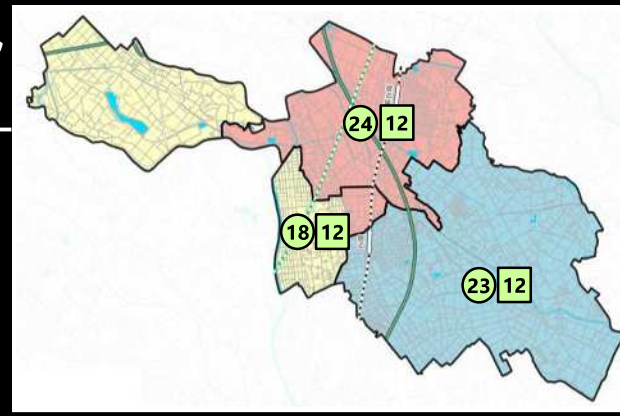
- ・小規模校の解消が図れる。
- ・学校規模を最大限確保することで、クラス替えや行事の活性化が図れ、多様な考え方に触れる機会が増えるなど、**教育の質や社会性の向上が期待できる。**

デメリット

- ・篠津中学校区または白岡中学校区の中学校が**大規模校**となり、**学校の適正規模を超えてしまう。**
- ・小学校が5校から3校になるため、通学距離が伸びる地域において児童の通学負担が大きくなる。
- ・中学校が4校から2校になるため、生徒の通学負担が大きくなる。
- ・学校規模が大きくなることで、地域コミュニティへの影響が懸念される。

パターン②

小学校 3校
 中学校 3校



メリット

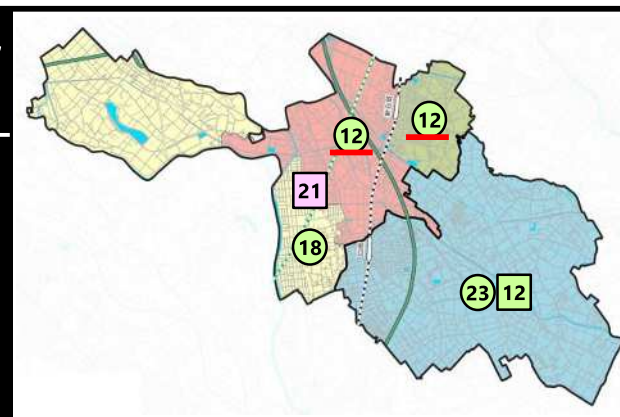
- ・小規模校の解消が図れる。
- ・**すべての小中学校で適正規模を確保できる。**
- ・**小中学校の校数が同じになるため、小中一貫教育の実現性が高まる。**

デメリット

- ・小学校が5校から3校になるため、通学距離が伸びる地域において児童の通学負担が大きくなる。
- ・中学校が4校から3校になるため、一部地域で生徒の通学負担が大きくなるとともに、将来的に小規模校化のリスクがある。

パターン③

小学校 4校
 中学校 2校



メリット

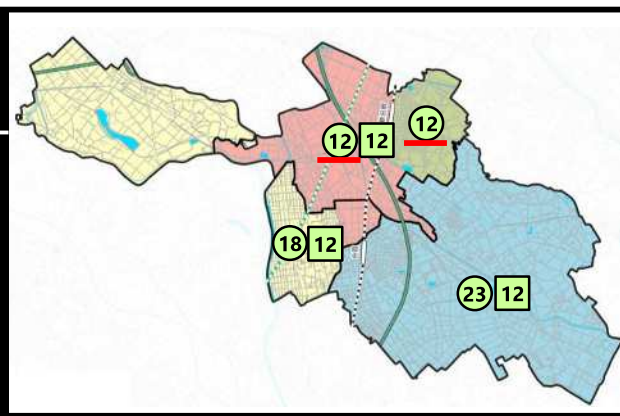
- ・小規模校の解消が図れる。
- ・小学校が5校から4校になるため、パターン①、②と比較して児童の通学負担を抑えることができる。
- ・**中学校が4校から2校になることにより、クラス替えや行事の活性化が図れ、効果的な学校運営が期待できる。**

デメリット

- ・篠津中学校区の2つの小学校が**準適正規模校**となり、**学校の適正規模を下回ってしまう。**
- ・篠津中学校区または白岡中学校区の中学校が**大規模校**となり、**学校の適正規模を超えてしまう。**
- ・小学校で将来的に小規模校化のリスクがある。
- ・中学校が4校から2校になるため、生徒の通学負担が大きくなる。

パターン④

小学校 4校
 中学校 3校



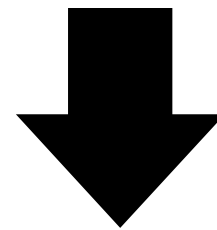
メリット

- ・小規模校の解消が図れる。
- ・小学校が5校から4校になるため、パターン①、②と比較して児童の通学負担を抑えることができる。
- ・**現在の学校区単位での地域コミュニティの維持に最も配慮している。**

デメリット

- ・篠津中学校区の2つの小学校が**準適正規模校**となり、**学校の適正規模を下回ってしまう。**
- ・小学校で将来的に小規模校化のリスクがある。
- ・中学校が4校から3校になるため、一部地域で生徒の通学負担が大きくなるとともに、将来的に小規模校化のリスクがある。

- ・ 4つのパターンのメリット、デメリットを比較検討
- ・ 審議会において、多角的な視点による議論を実施



その結果・・・

パターン2 (小学校3校・中学校3校)

を軸として検討を進める方向性が示された。

パターン2が選ばれた主な理由

- 全ての小中学校において適正規模を確保することができ、学校の過大化や過小化に伴う児童生徒の学習・生活環境への影響や教職員の過度な負担といった各規模における課題の解消が期待できる。
- 小学校と中学校の数が一致することで、小中一貫教育の実現性が高まり、学習指導の充実や子どもたちの豊かな人間性の育成、児童生徒へのきめ細かな支援の向上が期待できる。
- 将来ビジョンの柱の1つである、「地域とともに育む「協働と創造の学び」の推進」を実現していく上で、最も安定感がある。

4. 白岡市全体の学校の適正規模・適正配置の方向性

審議会からの答申

【答申の概要】

- ・令和8年7月6日に、白岡市立学校適正規模・適正配置審議会より、市教育委員会に対し、「白岡市立学校の適正規模・適正配置等について」の答申がなされた。
- ・答申内容の構成は、大きく3つに分かれており、「白岡市全体の学校の適正規模・適正配置」、「審議の経緯及び配慮事項」、「審議会からの意見等について」となる。

① 市全体の学校の適正規模・適正配置

- ・ **パターン2「小学校3校・中学校3校」を軸**として、具体的な再編案を検討していくことが妥当とされた。

② 小中一貫教育の推進について

- ・ 児童生徒数の減少や不登校、特別支援教育への対応といった教育課題に対し、9年間を見通した連続性のある指導体制の構築は極めて有効である。
- ・ 「小学校3校・中学校3校」の方向性は、小学校と中学校の数が一致することから、小中一貫教育を展開していく上で効果的である。



よって、小中一貫教育の課題を克服しつつ、推進に取り組むことをお願いしたい。

③ 審議会からの意見等について（主なもの）

(1) 地域・保護者への対応

- ・ 地域住民等に対し、丁寧な説明を実施し、共通理解と信頼関係の構築に努めていただきたい。
- ・ 各地域の実情に即して、必要に応じた準備委員会の設置など、丁寧な合意形成に努めていただきたい。
- ・ 学校の適正規模・適正配置の取組にあたっては、子どもたちの学習環境や生活環境への影響、地域の実情などを考慮し、段階的に進めていただきたい。
- ・ 通学距離が伸びる場合の児童生徒に対し、通学負担を軽減するため、柔軟な通学手段の確保などの対応をお願いしたい。
- ・ 社会情勢や人口動向の変化に合わせ、適宜、計画内容の見直しの検討をお願いしたい。

(2) 学校施設・財政管理

- ・ 防災や地域の学びや交流の拠点として、学校施設と他の公共施設との複合化・共用化の検討をお願いしたい。
- ・ 学校の適正規模・適正配置により削減された施設維持管理費等の財源は、教育内容の充実や指導体制強化のための予算として継続的な確保を図ることをお願いしたい。

4. 白岡市全体の学校の適正規模・適正配置の方向性

(3) 教育支援・学校運営

- ・ 確かな学力や課題を発見し解決する力を養うとともに、誰一人取り残さない視点に立ったきめ細やかな教育支援の充実を図ることをお願いしたい。
- ・ 誰一人取り残さない視点に立ち、特別支援教育や不登校児童生徒への支援を充実させ、子どもたち一人ひとりに寄り添った対応をお願いしたい。
- ・ 小中一貫教育の形態については、地域の実情や児童生徒数、学校施設の状況等に応じて、最適な形態を選択するよう柔軟な対応をお願いしたい。
- ・ 「図書を生かした教育」の充実に向け、まずは図書の定義や役割を明確にした上で、学校司書等の専門スタッフの適切な配置や将来的な学校の図書室の地域開放といった運用の工夫の検討をお願いしたい。
- ・ 「図書を生かした教育」以外にも新たな特色を引き続き検討することをお願いしたい。

教育委員会の進め方

- メリットを最大限に生かし、デメリットを最小限にするという判断基準を念頭に置き、審議会で示された「パターン2（小学校3校・中学校3校）」を軸に学校再編案の検討を進めていく。
- 皆さまのご意見や審議会からの答申内容を最大限に尊重し、多様な学習環境の確保や通学時の安全確保・負担軽減といった課題に対し、地域の実情を踏まえた適切な対応を行う。

5. 今後のスケジュール

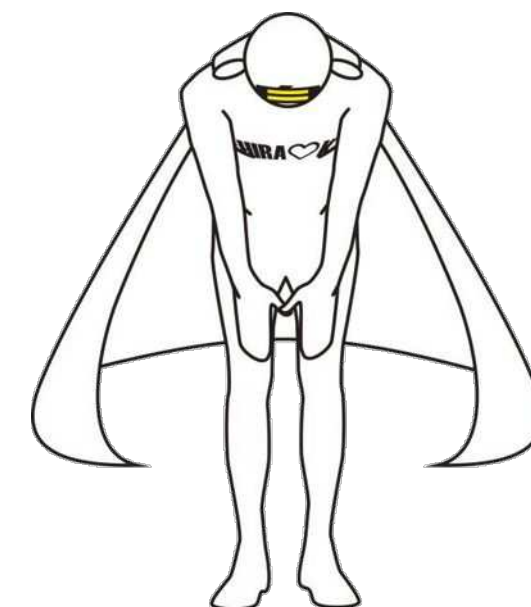
時期	主な取組（予定）
7月～12月	・ 具体的な学校再編案の検討 ・ 計画（素案）の完成（9月末を予定） ・ 教育委員や市議会などと協議（10月、11月） ・ 市民説明会（12月）※ 具体的な学校再編の内容を説明 ・ パブリックコメントの実施
R9 1月～2月	・ 計画の最終調整 ・ 計画を教育委員会へ議案として提出
3月	・ 計画完成 ・ 市民説明会

ポイント



地域住民の方々に対し、丁寧な情報共有を図り、児童生徒の教育的な観点を第一に取り組んでいく。

ご清聴ありがとうございました



これまでの取組の詳細は、
ぜひ、こちらからご覧ください！

